

新年を迎えて

子ども会育成会会長 中尾 信夫

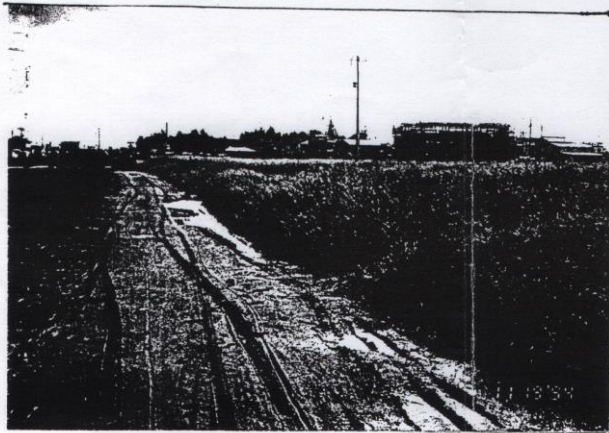
謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日頃より子ども会の事業活動におきまして、ご理解、ご支援を頂きまして誠にありがとうございます。

去年は三世帯交流をテーマに、できるだけ多くの町内の皆様方に、子ども会の活動を通してふれあいの機会をつくってまいりましたが、まだまだ不十分であったと反省しております。町内の事業にしましても、子ども会の事業にしましても、世代を越えて多くの方々に参加して頂く事によって、コミュニケーションが図れ、地域の活性化につながるものと思います。

また、子供達にとっては、学校や家庭では学べない「何か」がそこにあると思います。将来、心の中に一つでもその「何か」が残っていれば生きていくうえで、大きな糧となるのではないのでしょうか。

今後も、町内の皆様方のご指導、ご協力を頂きながら、子ども会活動を発展させていきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。



本格的な工事が待たれる福田一宮線

〈町内会より〉

■ 子ども会・体協が県公舎と合併

県公舎では近時戸数が大変減少しており、子ども会や体協の活動が困難になってきています。したがって県公舎から田中野田の子ども会や体協に入れてほしいとの申し入れがありました。そこで、関係者で検討した結果、特別な支障がない限り受け入れていくことになりました。子ども会はすでに一緒に活動しています。

■ ゴミステーションのごみについて

- ☆ ごみを出す日を間違えないように
 - ・違ったら持ち帰る。 ・前の晩に出さない
- ☆ 燃えるごみと燃えないごみははっきり分ける
 - ・プラスチックなどは燃えない仲間
- ☆ ごみ袋は透明か半透明にする
 - ・ダンボールはダメ ・不透明もダメ

困っています これだけは守って!



わが郷土を語る (その27)

中尾 佐之吉

昔、日の丸弁当・今、豪華な学校給食

前回は、生活の中の「衣」について書いた。今回は「食」について書くと思う。と言っても、前回同様その一端として、私の小学校時代の昼食弁当と今の学校給食をとりあげて食生活の移り変わりをみることにする。

1) 現在の学校給食

現在の学校給食は戦後に始まったのであるが、市内小学校の今年12月の献立表を見せてもらった。ある日の献立はつぎのとおりであった。

献立名	ごはん、牛乳 ふきよせ煮 みずなの即席漬 くだもの	主材	牛乳、焼き豆腐、ちりめんじゃこ 若どり、かまぼこ、うずら卵、 ごはん、さといも、くり、しめじ にんじん、えんどう、みずな、みかん
-----	------------------------------------	----	---

献立は毎日かわる。主食はごはんの日もあり、パンの日もあるが、牛乳と“くだもの。はいつもついている。なお、児童一人当たりの熱量は、650カロリーが基準とか。

2) 戦前の学校給食 (東北地方の例)

戦前でも学校給食があったのかと不思議に思われるかもしれないが、この地方のことではない。昭和のはじめごろ、東北地方の農村であいつく凶作と不景気のため多くの欠食児童がでたということで、学校給食がなされたところもあったのである。

昭和12年刊、結城哀草著「続村里生活記」によると、山形市近くの山元村での学校給食の記事が載っている。そのなかの、欠食児童への補食的給食の献立表数日分の中からある日の献立表をみるとつぎのとおりである。なお、この費用は県や村の交付金と義捐金で賄われたとある。

山元村学校給食献立表 (昭和10年頃)

12月20日	芋飯 … 分量1人分 半搗米1合 馬鈴薯 小2個 味噌汁 … ごぼう、かつお節少量 漬物 … 白菜
12月21日	白飯 … 半搗米1人分1合2勺 煮付 … 鰯、こんぶ、大根、にんじん 漬物 … 白菜

3) 私らの小学生時代の昼食弁当

体の小さい小学生が教科書と弁当箱の入ったカバンを肩にかけて学校に通うのであるが、その小さな弁当箱には、ごはんと何がしかのおかずが入っているのである。

この地方は米どころであったから、「貧乏人は、麦飯を喰え」といわれても米のごはんではあったが、おかずたるや甚だお粗末なものであった。白いごはんの中へ梅干しが1個入っていると、「日の丸弁当」と言われていたが、それより少しましなくらいのものであった。たまご焼などついていたら最高で、“たくあん”に“つくだに”や“みり干(干魚)”、くらいのものであった。山元村の学校給食よりも劣っているし、カロリーにしても栄養にしても質とも満点の今の学校給食にくらべたら天地の相違だ。当時は、満腹感が得られれば上等とされていた。なにせ、現在の学校給食に毎日だされる牛乳も、昔は、病人か裕福な家庭の人が飲んでいたくらいのものであったのだ。もちろん私の口には入らない。

昔から「衣食足りて礼節を知る」(中国、春秋時代の人、「管仲」の書物に基づくと言われる)ということが言われてきた。戦後の経済発展とともに衣食住の生活面も格段に豊かになってきたので、このことわざが生きてくるはずだと期待していたのだが…。学校でのイジメ問題や、市井でのもめごとや争いごとが相変わらず新聞種になっているのを見ると、管仲先生の説もあやしいと言われなければならない。しかし、戦前のように「父母二孝二、兄弟二友二、夫婦相和シ、朋友相信シ」と何ごとも秩序を重んずる時代でなく、人が個人として最大限尊重されなければならないという世の中に変ったのだから、人々の自己主張が多くなり争いごとが増えるわけで、いまさら、2600年以上も前に生まれた管仲先生をせめる気にはなれない。

話が横道にそれてしまった。お許しを。



あとがき

区画整理も終わりに近づき、田中野田の地域は今多方面に目覚ましい変容、発展をしています。大きな目で見れば我々の祖先も経験したことのない画期的な転換期を迎えていると言えましょう。

- 田中野田について考える会をもち、町内の将来について語りたい。
- この地域から長らく市議会議員を出していない。町内で議員を出す運動を進めよう。
- 地域の特性を生かした整備、イベントを考えたらどうか。(笹ヶ瀬川の活用・花いっぱい運動など)

このようなさまざまな声を耳にしています。今の時期を考えると、このような心ある人の声に添えていくことも大切なことと考えます。その意味で今年は皆様が膝を交えて夢を語り合い、時代の流れに遅れないようその実現を目指して第一歩を踏み出す年にしたいものだ念願しています。

原・和気